



今後の活躍が期待されるマリア・ルイサ

# 歴史的な変化を迎えるメキシコ

～トセパン協同組合の希望 マリア・ルイサ～

トセパン協同組合に、この夏、大きな希望がうまれた。メキシコで今年7月に行われた大統領選で、環境保護や社会的公平を重視するオブラドール氏が勝利。そして、12月からスタートするこの新政権において、貧困対策や社会開発を担う省の大臣に、トセパン協同組合で長年アドバイザーとして活動してきたマリア・ルイサが指名されたのである。

マリア・ルイサは、トセパン協同組合において生産活動や運営、女性グループの活動や鉱山開発への反対運動の分野でアドバイザーとして活動してきた。特に、伝統的に細々と行われてきたハリナシミツバチのハチミツ生産の知識を研究所と協力して体系化し、加工・販売にまで発展させた。

現在はトセパン協同組合が設立した中学校の校長先生も務めている。トセパン協同組合はその多様な取り組みと規模の大きさから、メキシコ国内でも年々名前が知られるようになってきていたが、こうしたマリア・ルイサの取り組みも評価され今回の指名に至っている。

オブラドール氏は、麻薬組織、政府の汚職を一掃させることを目指しており、長年これらの問題に苦しめられてきたメキシコ国民の幅広い層から支持を得た。その他にも自然エネルギーへの移行、100万ヘクタールの植樹・森林回復計画などの政策を掲げている。

このうち「100万ヘクタールの植林計画」は、政策の中でも優先的に考えられている計画で、マリア・ルイサが実施責任者になる予定だ。植林活動は特に貧困層の多いメキシコ南東部から始まり、森林農法による森づくりと生産活動で多くの雇用を生み出すことを目指している。

森を守り、育むだけでなく、貧しい人たちを支援することにつながる。これまでトセパンが行ってきた取り組みが、メキシコ全体へと広がっていく。破壊的な「死のプロジェクト」ではなく、「皆が幸せになる」ためのプロジェクト。そんな政策が新政権の下で行われることを、トセパン協同組合の仲間たちは心から願っている。